

株式についてのご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日（中間配当を行う場合）
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 Tel 0120-232-711（通話料無料）
上 場 証 券 取 引 所	東京証券取引所
公 告 の 方 法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.mapple.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社 昭文社（証券コード No.9475）

〒102-8238 東京都千代田区麹町3-1 TEL03-3556-8111（代表）

ホームページアドレス <http://www.mapple.co.jp/>



第50期 年次報告書

平成20年4月1日～平成21年3月31日

株式会社 昭文社

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに第50期（平成20年4月1日～平成21年3月31日）の業績をとりまとめましたので、その概要をご報告申し上げます。

当期におけるわが国の経済は、前半には長期化する原油価格、素材価格の高騰、後半にはリーマンショックを契機とする世界的な金融危機による企業業績の急激な悪化と雇用問題等の影響により、個人消費も減速感が顕著になった1年でした。

出版業界におきましても、出版物販売額は書籍・雑誌ともに連続して前年実績を下回る結果となっており、特に雑誌においては休刊点数も増加傾向にあるとともに、広告収入も大幅に減少いたしました。

このような環境のもと、当社グループにおける当期の業績は、以下の通りとなっております。

電子事業では、当社グループの地図データ・ガイドデータとカーナビ用アプリケーションソフト『MAPPLEnavi』の開発により、簡易型カーナビゲーション（PND）向け売上も獲得し、カーナビゲーション市場への参入も実現いたしました。また、GIS事業では、官公庁や警察関連の売上は堅調に推移いたしました。Web事業では、ASPサービスにおいて一部の不動産関連企業の

需要が減少傾向となりましたが、ナビゲーションサービスを運営するコンテンツプロバイダからの収入が増加いたしました。宿泊予約事業におきましては、予約件数及び成約金額は増加してきておりますが、収益率の高い当社独自ブランドの獲得が追いつかず売上は伸び悩んでおります。また電子事業のブランディング戦略の一環として各種サービスの名称を『MAPPLE』ブランドに統一すべく、各サービスの名称変更を行ってまいりました。その結果、売上高は44億24百万円（前期比2億43百万円、5.8%の増加）となりました。利益面におきましては、データベースのメンテナンス費用、償却費が増加したことや、カーナビゲーション事業や宿泊予約事業における費用が先行したこともあり、営業損失は10億60百万円（前期比9億50百万円の損失増加）となりました。

出版事業では、カーナビゲーションやインターネットの影響により低迷した状況が続いておりますが、売上を確保すべく新刊商品の出版や市場シェアの拡大、書店店頭での各種フェアの開催等を実施してまいりました。前期末に出版した国内ガイドブック『ことりっぷ』は、その内容に加え表紙デザインや軽さが女性利用者を中心に評価され売れ行きも好調に推移し、従来商品を超える実

績を確保しております。しかし、景気の下降傾向に加え夏場のガソリン価格の高騰、さらにその後の世界経済悪化や個人消費の低迷を受け、特に地図商品を中心に売上は大幅に減少しました。また、広告収入も紙媒体広告からWeb広告へと移行する傾向はより大きくなり、当社出版物における広告収入も伸び悩む結果となり、売上高は115億96百万円（前期比19億14百万円、14.2%の減少）と前期実績に対して大きく減少いたしました。利益面では、返品率は若干改善したものの、新刊商品における原価高の影響や売上が伸び悩む中、各商品の出版部数の減少による原価率の上昇も影響しております。特に利益率の高い地図商品の売上が大幅に減少した影響も大きくなっております。一方で、プロモーション費用の削減や営業体制の縮小もあり販売管理費が減少し、営業利益は28百万円（前期は営業損失1億2百万円）と改善いたしました。

この結果、全社合計の売上高は155億77百万円（前期比11.6%減）、経常損失は18億58百万円（前期比8億35百万円の損失増加）と前期実績を大きく上回る損失を計上する結果となりました。また、期末において、近年急激に変化している経済情勢や個人消費の減速といった事業環境をふまえ、今後の経営計画の再検討を

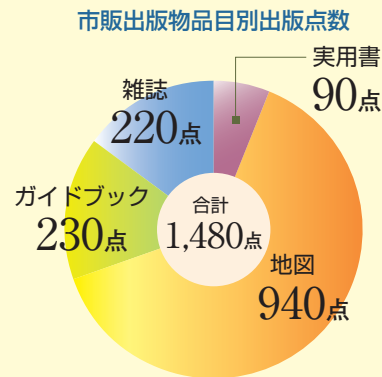
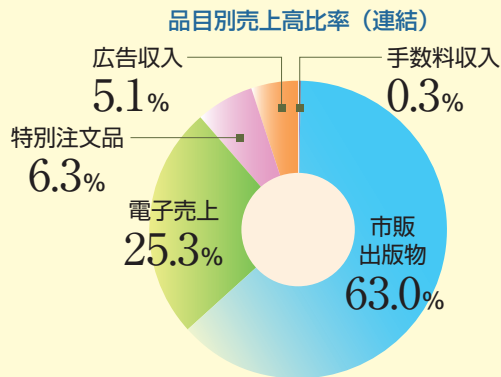


代表取締役社長

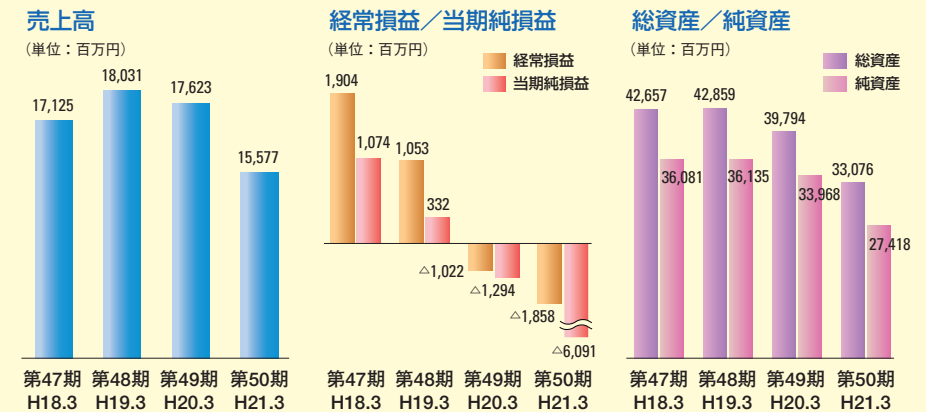
黒田 茂夫

行い、希望退職制度による特別加算金等と、無形固定資産の減損損失等の特別損失を計上した結果、当期純損失は60億91百万円（前期比47億96百万円の損失増加）となりました。

来期も厳しい経済環境が続くものと思われませんが、今後の当社グループにおける業績向上には電子事業の早期拡大及びそのための積極投資が欠かせない状況となっております。そのために経営資源の選択と集中を進めるとともにさらなるコスト削減に努め、株主の皆様のご期待にお応えすべく、全社一丸となって業務に精励する所存です。なお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

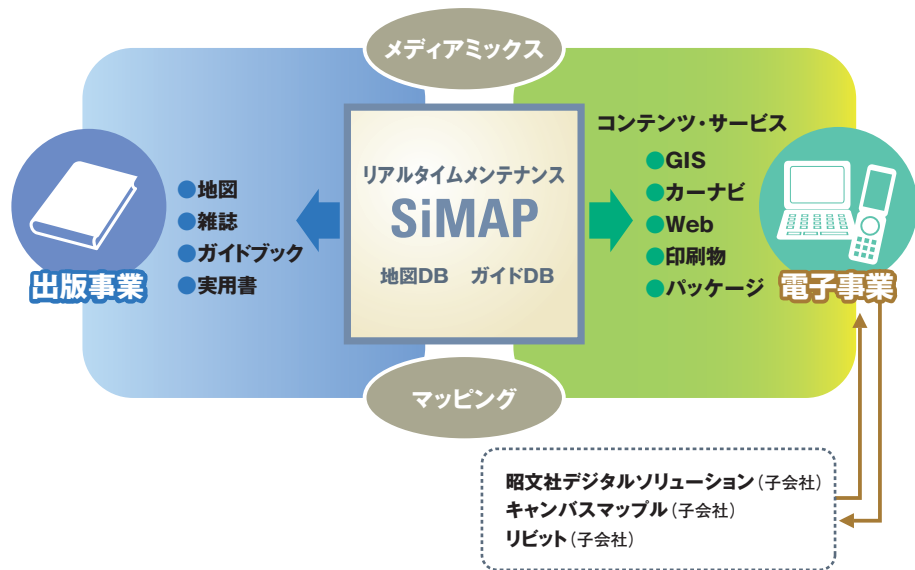


業績の推移（連結）



事業への取り組み

■ SiMAP ワールド



経営の基本方針

当社は創業以来、「地図をベースに限りない挑戦により変化の時代を拓き、社会に貢献する」という経営理念のもと、顧客のニーズに応えた最高の地図をつくり、もっとも信頼される新鮮な情報と出版物を提供することに邁進してまいりました。

また、「革新を追求」という社是を実践し、今日の地図・旅行ガイドブックを中心とした出版事業を確立してまいりました。

今後も、変化の激しい社会環境のなかで多様化する利用者の要請に応えるとともに、製品の利便性を追求し、よりタイムリーで高品質な製品づくりに取り組むことはもとより、情報の提供形態も出版物にとどまらず、当社のSiMAP（サイマップ：昭文社統合地図情報システム）の地図・ガイドデータベースをもとに電子事業分野への積極的な事業展開を図り、「情報社会の一翼を担う企業」を目指すことを基本方針としてまいります。

電子事業の状況

当期の電子事業は、世界同時不況で生じた国内企業の業績減速の影響で、需要が伸び悩みました。特に不動産関連の売上減が響き、受注件数は伸びたものの売上単価の低下により、電子事業全体の業績を圧迫しました。

一方、官公庁関連では、警察・消防の売上が堅調に推移し、想定以上の実績を残すことができました。

コンシューマー向けビジネスにおいては、Webサイトや携帯電話で提供しているサービスの認知度を高めるとともに、サービス同士の親和性向上を図って、各サービス名を「MAPPLE」ブランドで統一しました。また、「MAPPLE ドライブ」サイトの立ち上げ、iモード向けの「MAPPLE ちず丸音声ナビ」（→5ページ）の開始など、サービスの充実・強化を推進してまいりました。

ここ数年来、電子事業においては将来に向けたビジネス基盤の整備を進めてまいりました。簡易型カーナビゲーション（PND）における受注獲得はその成果のひとつであり、同時に今後のカーナビ市場への本格進出の足掛かりとしても期待できるものと確信しております。

その他、電子地図データベースの充実にあたり、同業者であるインクリメント・ピー株式会社と業務提携することにより、情報収集の効率化を図りました。

また、Webサイトと出版物とのメディアミックスによる観光協会の支援サービスへの進出は、「MAPPLE」ブランドの媒体力を活かした新展開となりました。

出版事業の状況

当期の出版事業は、長期にわたる業界全体の下落傾向に歯止めがかからず、加えて世界金融危機に起因する経済の悪化、個人消費の減速などにより厳しい環境にありました。そのような状況下、当社は時流に沿ったガイドブックの刊行を進めるとともに、商品ラインナップの見直し、営業体制の改革を行うなど、収益圧迫の最大要因である返品率の低下を最重点に事業を展開してまいりました。

当社の主力商品のひとつである地図は、上半期の原油高によるガソリン価格の高騰もあり、厳しい状況で推移しました。

一方、もうひとつの柱であるガイドブックにおいては、社会状況や読者のニーズに沿ったものに絞り込んで投入していった結果、市場シェアを伸ばし、国内ガイドブック市場をリードする地位を占めるに至りました。

なかでも前期末の平成20年2月に刊行した「ことりっぶ」（→6ページ）は、期中にシリーズ累計180万部を超える大ヒット商品となりました。また、円高ウォン安による韓国ブームが追い風となり、下半期には「マップルマガジン ソウル」をはじめ韓国関連商品が顕著な動きを示しました。

今後も社会状況や市場のニーズを勘案して、より市場に受け入れられる商品を投入していくとともに、営業面においても効率化と販路拡大を図ってまいります。

Webサイト・出版物の両面から地域のイベント、キャンペーンを支援

国内の自治体や観光地では地域の活性化が叫ばれている反面、費用対効果の面で苦慮しているところが数多くあります。当社はそのソリューションとして、観光協会の支援サービスを展開しています。内容は観光協会が主催するイベントやキャンペーンの誘客を、Webサイト構築及びガイドブック作成の両面で支援するというものです。

サービスの大きな特徴は、当社のWebサイト・出版物と、観光協会のWebサイト・出版物とが連携できる点です。また、当社のCMS（コンテンツ管理システム）機能を利用することで観光協会側が簡単にサイト構築を行え、作成にかかる時間とコストの低減を図ることが可能です。

平成20年9月には第一弾として、千葉県「ちばプロモーション協議会」様が主催する「ぐるっとゆめ半島ちば」のPRをサポートしました。



具体的名称も読み上げる『MAPPLE ちず丸音声ナビ』正式サービスを開始

平成20年10月、iモード向けに『MAPPLE ちず丸音声ナビ』の正式サービスをスタートしました。

『MAPPLE ちず丸音声ナビ』は平成20年8月より『MAPPLEのちず丸』上で無料体験版を提供していましたが、正式版ではそれまでの「徒歩+電車ナビ」に加え、車の助手席で利用できる「カーナビ」、ウォーキング時やランニング時に便利な

「徒歩Onlyナビ」を追加しました。

『MAPPLE ちず丸音声ナビ』の特徴は、目印となる通り名や交差点、施設の具体的な名称をあげて案内する点です。携帯電話による音声ナビのサービスは他にもありますが、具体名をあげて案内するものは、国内では『MAPPLE ちず丸音声ナビ』が初めてとなります。



『MAPPLE ちず丸音声ナビ』のガイダンス例
 「中央通りを通ります」
 「木更津ジャンクションを右方向、木更津・アクアライン方面です」

発売後1年でシリーズ累計180万部突破！おしゃれなガイド『ことりっぷ』が好調

平成20年2月に刊行を開始した国内ガイドブック『ことりっぷ』が、発売開始後1年でシリーズ38点の累計180万部突破し、国内ガイドとしては異例の大ヒットとなりました。

『ことりっぷ』は、「2泊3日の“小さな旅”」をテーマに、おすすめ情報に特化した女性向けの国内ガイドブックです。内容もさることながら、「軽さ（携帯しやすい）」と従来のガイドブックになかった「和風のおしゃれな装丁」、加えて多くのマスコミに取り上げられたことがヒットの要因としてあげられます。

平成21年3月には、エリア別に編集された先行の38点に加えて「散歩」「おみやげ」といったテーマ別に編集した4点をラインナップしました。



シンプルさがポイント！ポケットに入る国内ガイド『Poketa』全33点一挙刊行

平成21年2月、ポケットに入れて携帯できる新しい国内ガイドブック『Poketa』を刊行しました。

『Poketa』は、旅先の基本情報が「5分でわかる」ようにシンプルな構成となっています。掲載するスポット情報も、基点となる主要駅などから「5分で着ける」「半径5km圏内」、さらに「5つのおすすめスポット」をセレクトするなど、手軽に旅を満喫できることをコンセプトに編集されています。

従来の商品より携帯性を高めるために文庫判サイズを採用しました。重さも平均80gと最軽量（当社比）になっています。



トピックス

■ETC割引関連商品が好調！

平成21年3月20日以降、ETC搭載の対象車輦に高速道路料金の割引が順次実施されました。ガソリン価格の低下とあいまって、土日祝日における高速道路を

利用したドライブや旅行へのニーズが高まっています。

当社では、ETC割引をテーマにしたガイド本『1000円ドライブ』を、他社に先駆けて発売しました。平成21年4月21日に首都圏発版、4月24日に京阪神・名古屋発版を発売し、すぐに重版を行うほどの好評を博しています。

同様に『全国SA・PA 道の駅ガイド』も売れ行き好調です。



■地図・旅行関連Webサイトを「MAPPLE」ブランドに統一

平成20年12月1日より、当社の運営する地図・旅行関連のWebサイトを「MAPPLE」ブランドに統一し、名称を変更しました。

このたびのブランド統一・サイト名の変更は、当社商品・サービスの認知度の向上とともに、他社との明確な差別化を図るために実施したものです。また、これを機にサイトの利便性と、各サイト間での連携を高め、MAPPLEのデジタルブランドの認知度アップを図ってまいります。



配当に関するご案内

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして位置づけており、利益配分につきましては会社業績や経営環境を勘案しつつ、安定的な配当の継続を行うことを基本方針としております。

当期の期末配当につきましては、上記の方針を踏まえながらも、前期に引き続き当期も大幅な損失を計上したことや今後の事業環境の厳しさも考慮した結果、誠に遺憾ではありますが、前期1株につき20円の普通配当から4円減額し、普通配当を1株につき16円とさせていただきます。

株主優待のご案内

当社では、当社の事業についてより深くご理解いただきたく、株主優待制度として、100株以上ご所有（3月末現在）の株主様に、3,000円相当の当社商品を進呈しております。

本年はご好評をいただいております『なるほど知図帳日本』『なるほど知図帳世界』を株主様のお届出住所にお送りいたします。

発送は7月上旬を予定しております。

《株主優待の発送についてのお問い合わせ》
株主優待事務局（平成21年9月末まで）
0120-228-452
（受付時間 9:00～17:00／土・日・祝日を除く）



従来の地図に、歴史・文化、観光、スポーツ、政治・経済などの特集をプラスした「知」図帳です。

連結財務諸表

連結貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	当期 (平成21年3月31日現在)	前期 (平成20年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	12,944	15,226
固定資産	20,132	24,568
有形固定資産	10,159	10,608
建物及び構築物	3,563	3,737
土地	6,246	6,318
その他	349	552
無形固定資産	7,564	11,031
データベース	6,548	10,089
のれん	534	144
その他	481	797
投資その他の資産	2,408	2,927
投資有価証券	1,469	1,979
その他	1,096	1,097
貸倒引当金	△157	△148
1 資産合計	33,076	39,794
(負債の部)		
流動負債	4,207	4,639
固定負債	1,449	1,186
負債合計	5,657	5,825
(純資産の部)		
株主資本	27,302	33,294
資本金	9,903	9,903
資本剰余金	10,708	10,708
利益剰余金	7,215	13,820
2 自己株式	△524	△1,138
評価・換算差額等	115	471
その他有価証券評価差額金	108	459
為替換算調整勘定	7	12
少数株主持分	—	202
純資産合計	27,418	33,968
負債純資産合計	33,076	39,794

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

1 総資産

資産合計の大幅な減少は、データベース及び無形固定資産等において減損損失を計上したことによるものです。

2 自己株式

連結子会社の日本コンピュータグラフィック(株)(現社名：(株)昭文社デジタルソリューション)を完全子会社とするべく、保有する自己株式を株式交換として使用したことにより減少いたしました。

3 売上高

出版事業における市販出版物の売上が大幅に減少したことによるものです。

4 特別損失

下記の損失計上によるものです。
●希望退職制度実施による特別加算金等にかかる損失の計上。
●遊休資産に対する減損損失の計上。
●電子事業資産の回収可能性を再検討したことによるデータベース・ソフトウェアの減損損失の計上。

連結損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	当期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	前期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
3 売上高	15,577	17,623
売上原価	12,586	13,285
売上総利益	2,991	4,338
販売費及び一般管理費	4,901	5,381
営業損失	1,909	1,043
営業外収益	123	105
営業外費用	72	83
経常損失	1,858	1,022
特別利益	292	143
4 特別損失	4,683	170
税金等調整前当期純損失	6,249	1,048
法人税、住民税及び事業税	30	35
法人税等調整額	△188	280
少数株主損失	—	70
当期純損失	6,091	1,294

連結株主資本等変動計算書

当期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計		
平成20年3月31日 残高	9,903	10,708	13,820	△1,138	33,294	459	12	471	202	33,968
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当			△327		△327					△327
当期純損失			△6,091		△6,091					△6,091
自己株式の取得				△174	△174					△174
自己株式の処分				788	601					601
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△351	△4	△356	△202	△558
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△6,605	613	△5,991	△351	△4	△356	△202	△6,550
平成21年3月31日 残高	9,903	10,708	7,215	△524	27,302	108	7	115	—	27,418

連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	当期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	前期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,166	△62
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,192	△2,862
財務活動によるキャッシュ・フロー	△745	△632
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	228	△3,558
現金及び現金同等物の期首残高	5,087	8,645
現金及び現金同等物の期末残高	5,315	5,087

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

財務諸表

貸借対照表の要旨

(単位：百万円)

科目	当期 (平成21年3月31日現在)	前期 (平成20年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	11,801	13,886
固定資産	20,619	24,844
有形固定資産	9,304	9,556
無形固定資産	6,792	10,432
投資その他の資産	4,522	4,855
資産合計	32,420	38,731
(負債の部)		
流動負債	3,642	4,057
固定負債	624	722
負債合計	4,267	4,780
(純資産の部)		
株主資本	28,045	33,490
資本金	9,903	9,903
資本剰余金	10,708	10,708
資本準備金	10,708	10,708
利益剰余金	7,957	14,016
利益準備金	244	244
その他利益剰余金	7,713	13,772
別途積立金	13,100	13,100
繰越利益剰余金	△5,386	672
自己株式	△524	△1,138
評価・換算差額等	108	459
その他有価証券評価差額金	108	459
純資産合計	28,153	33,950
負債純資産合計	32,420	38,731

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書の要旨

(単位：百万円)

科目	当期 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)	前期 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)
売上高	14,791	16,828
売上原価	12,020	12,834
売上総利益	2,770	3,993
販売費及び一般管理費	4,352	4,761
営業損失	1,581	768
営業外収益	114	106
営業外費用	58	34
経常損失	1,525	696
特別利益	292	102
特別損失	4,493	616
税引前当期純損失	5,726	1,210
法人税、住民税及び事業税	26	31
法人税等調整額	△207	259
当期純損失	5,545	1,501

株主資本等変動計算書

当期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株主資本								評価・換算差額等		純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己 株式	株主 資本 合計	その 他有 価証 券 評 価 差 額 金		評価・換 算 差 額 等 計
		資本 準備金	資本 剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金 別途 積立金	繰越利益 剰余金	利益 剰余金 合計					
平成20年3月31日 残高	9,903	10,708	10,708	244	13,100	672	14,016	△1,138	33,490	459	459	33,950
事業年度中の変動額												
剰余金の配当						△327	△327		△327			△327
当期純損失						△5,545	△5,545		△5,545			△5,545
自己株式の取得								△174	△174			△174
自己株式の処分						△186	△186	788	601			601
株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額)										△351	△351	△351
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	—	△6,059	△6,059	613	△5,445	△351	△351	△5,796
平成21年3月31日 残高	9,903	10,708	10,708	244	13,100	△5,386	7,957	△524	28,045	108	108	28,153

(注) 記載金額は、単位未満を切り捨てて表示しております。

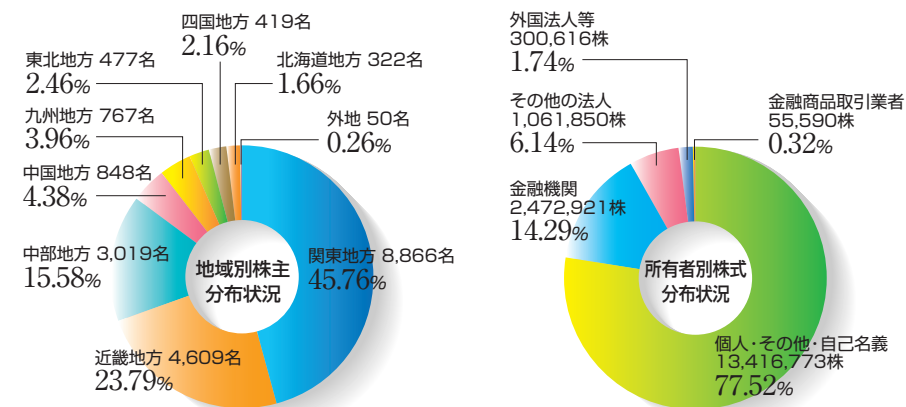
株式の状況 (平成21年3月31日現在)

発行可能株式総数	57,000,000株
発行済株式の総数	17,307,750株
株主数	19,377名

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
黒田敏夫	3,574 千株	21.49 %
黒田茂夫	1,699	10.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	854	5.14
昭文社社員持株会	753	4.53
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	427	2.56
株式会社三井住友銀行	347	2.08
株式会社三菱東京UFJ銀行	246	1.48
株式会社ファウンダー・マップル	180	1.08
株式会社エムティーアイ	174	1.04
応用地質株式会社	160	0.96

(注) 1. 出資比率は、発行済の普通株式の総数から自己株式 (677,924株) を控除して計算しております。
 2. 当社は自己株式を677,924株保有しておりますが、当該株式には議決権がないため上記大株主からは除外しております。
 3. 上記日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社の所有株式数の全ては、信託業務に係るものであります。
 4. 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社の所有株式数の全ては、信託業務に係るものであります。

株式の分布



会社概要 (平成21年3月31日現在)



- 会社名 株式会社 昭文社
- 創業 昭和35年5月
- 資本金 99億387万円
- 従業員数 429人
- 本社所在地 東京都千代田区麹町3-1
- 事業内容 SiMAPを中核とし、それを活用した地図・雑誌・ガイドブックの企画・制作及び出版販売を行う「出版事業」、ならびにデジタルデータベースの企画・制作・販売及びそれらを活用したサービスを提供する「電子事業」を展開

役員 (平成21年6月26日現在)

- | | |
|---------|-------|
| 代表取締役社長 | 黒田茂夫 |
| 取締役 | 大野真哉 |
| 取締役 | 内田次郎 |
| 取締役 | 熊谷隆司 |
| 取締役 | 岡本芳信 |
| 常勤監査役 | 立川喜久夫 |
| 監査役 | 関聡介 |
| 監査役 | 桑野雄一郎 |

事業所 (平成21年4月1日現在)

- | | |
|----------|---------|
| 本社 | 東京都千代田区 |
| 大阪支社 | 大阪市淀川区 |
| 制作本部 | 東京都江東区 |
| テクノセンター | 東京都中央区 |
| 仙台営業所 | 仙台市若林区 |
| 横浜営業所 | 横浜市西区 |
| 名古屋営業所 | 名古屋市中区 |
| 福岡営業所 | 福岡市中央区 |
| 東京商品センター | 東京都足立区 |
| 大阪商品センター | 大阪府摂津市 |
| 埼玉製本センター | 埼玉県大里根町 |
| コールセンター | 愛媛県松山市 |

関係会社

株式会社昭文社デジタルソリューション
 千葉県市原市
 事業内容 マッピング事業及びシステムソリューション事業

キャンバスマップル株式会社

東京都中央区
 事業内容 昭文社保有の地図及びガイドデータを活用したカーナビゲーション用ソフトウェアの開発・企画制作・販売

株式会社リビット

東京都中央区
 事業内容 ローカル広告メディア事業、ローカル広告企画・マーケティング事業及びWEB・モバイル広告メディア事業

IR情報も充実のホームページ

昭文社のホームページは、株主・投資家の皆様に向けてIR情報を豊富に盛り込んでいます。ニュースリリースによる最新情報や財務情報もご覧いただけます。また、年次報告書のバックナンバーや株価情報も盛り込んでいますので、ぜひアクセスしてください。

<http://www.mapple.co.jp/>

